

# 砂名の ベトナムに乾杯

## 第32回 イベントを通して、ベトナムの方たちに日本酒の魅力伝える

3月～4月。オミクロンの感染拡大でふたたび店の売上が低迷し、スタッフが帰任や一時帰国やらでいなくなり、加えて納税や銀行システムなどの相次ぐ急な変更で翻弄される毎日。今年が大殺界年であることを思い出しました。ですが12年前、2010年の大殺界には、平城遷都1300年祭で大規模なイベントを主催し、その2か月前には内閣府の研修を一日も欠席することなく二か月間受講したのです。その時心に決めたことは「苦しい時ほど、頂戴した機会は断らず、一生懸命取り組むこと」「損得勘定で動かず社会のためにフォーカスすること」でした。

そして今年5月末から一か月の間に三件のイベントのオファーを頂戴しました。うち一件は在ホーチミン日本国総領事公邸の改修のお披露目イベントで、当方の全面協賛でした。資金繰りの厳しい中、いかに費用を捻出しようかと考えあぐね、3月末に奈良市の臨時特別給付金を受給したのを思い出し、「奈良酒と奈良の観光」のために使わせていただくことにしました。来年2023年の日越外交関係樹立50周年を前に、日越関係の発展と日本文化の普及、日本の地方の物産や観光等のPRの機会として、今後解禁が見込まれる訪日観光の発信の場として。総領事館では、日本の地方自治体、当地在留邦人や企業関係者等10社以上による日本紹介イベントを開催しました。

イベントには、ホーチミン市や周辺省市



平和酒造柴田英道杜氏のお話。教室は、熱心に聴き入るベトナムの方たちの熱気に包まれていました。

の政府関係者、財界有力者、各国名誉総領事や報道関係者など、100名強の方たちがお集まりになられ、そのようすは報道やSNSを通じて広く発信されました。2年ほど前から輸入されている奈良酒4社のうち、【三諸杉純米吟醸 山田錦】【花巴水配×水配】を試飲していただき、尚美学園大学の定平ゼミが2010年に制作した奈良の観光PRビデオ等を流しました。欧米人にはウケの良い神社仏閣の映像は、ベトナムの方たちにはそれほど響かず、日本酒もまだこれからと言った印象でした。また「(日本に行く)ビザは取れるの?」とご質問を頂き、酒蔵ツーリズムを企画したいと思っていますのですが、ハードルが高そうだなという感触です。

また5月末は、ベトナム企業の酒蔵・酒造りに技術指導でご来越している和歌山県の平和酒造さんのご協力・ご協賛を得て、国際交流基金ベトナム日本文化交流センター(ホーチミン)にて「日本酒で

学ぶ日本の文化」講座が開催されました。参加者募集ではわずか3時間で定員数に達し、当日は学生、社会人のベトナム人25名、ゲスト4名、飛び入り7名の盛況ぶり。私は「日本酒の基礎」について講義し、柴田英道杜氏(とうじ)が、酒蔵のようすと酒造りについてお話をいただきました。参加者はみな熱心に聴いておられ、活発に質問をしていました。選出された2名が平和酒造の「紀土」を試飲し、講座終了後、参加者全員に試飲用の「紀土純米大吟醸」が配布されました。

そして6月末。9月オープン予定の寿司屋さんで、鮨と日本酒のペアリングイベントのお手伝いをさせていただきました。

いずれも、ベトナムの方に向けてのプロモーションで、これまでなかなかハードルの高かった、ベトナムの方に日本酒の魅力を知ってもらい、飲んでもらうという門戸が少しずつなりとも開いてゆけば良いなと思っています。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。